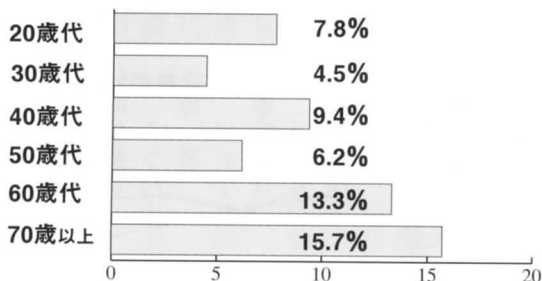
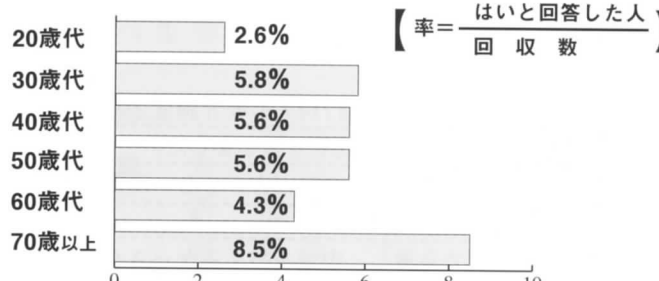


ウェルネス・アクションつる



●子どもの健康づくりが活発に行われていると思う人の割合



●地域の中で子どもの学びの環境が整っていると思う人の割合

【率 = $\frac{\text{はいと回答した人}}{\text{回収数}}$ 】

問合先 健康推進課 保健指導担当 ☎(46)51113 (内線124)

小笠原 悠保健委員の感想
 私は、いきいきプラザ都留に行って、赤ちゃんのお人形をお風呂に入れたり、着替えさせたり、にんぶ体験が出来てよかったです。にんぶ体験はおなかででて下があまり見えなくて立つのも大変でした。お母さん達が私達を産んでくれるのは大変だと思ひ、気持ちがあつてよかったです。お人形をお風呂に入れるのは本当の赤ちゃんを入れているみたいでこわかったけれど、入れ方が分かったので自分を入れてあげるときに役立てたいです。赤ちゃんをだっこするのはきちょうとしたけど、赤ちゃんがこわがることまると笑顔でだっこしたら笑ってくれたのでうれしかったです。私は赤ちゃんが好きなのでたくさん作って、お風呂やきがえをしてあげたいです。いろいろなことがたくさん分かってよかったです。お母さんの気持ちも分かったので自分が大人になったらそれを参考にしていきたいです。

中村亜由美保健委員の感想
 今日、命のことについて、赤ちゃんのことについていろいろとみなさんにおしえてもらいました。
 私は赤ちゃんが大好きだからとてうれしかったです。人形の赤ちゃんをつかってお風呂にいれたり、きがえさせたりしました。ほかに、にんぶ体験などをして、すごく勉強になりました。
 たくさん赤ちゃんやお母さんたちも来てくれて実際にインタビューしてみたり、赤ちゃんをだっこさせてくれたりしてすごいきんちようしたけど、赤ちゃんとも仲良くできたのでよかったです。
 今日、本当に勉強になりました。またいきいきプラザへ行つて皆さんに教えてもらいたいです。

ふれあい体験事業「地域の赤ちゃんとのふれあい」
 禾生第一小学校の保健委員さんより「赤ちゃんとのふれあう機会がほしい」という声があり、十月七日にいきいきプラザ都留にて、地域に住む十一組のおかあさんに協力をいただき赤ちゃんとのふれあい体験を行いました。当日参加した保健委員さんは赤ちゃんを抱いたり、触れたりしたことは、ほとんどが初めての体験で、はじめはぎこちない様子でしたが、体験をつうじ「小さな命」を実感するとともに、人形を使つてのお風呂の入れ方・着替え・妊婦体験ジャケツを着けたり、妊婦時の苦勞話を聞き保護者の見守るなか汗をかきながらの体験となり、「子育て」の大変さと自分たちも愛情を受けて育てられてきたことを理解したようでした。
 子ども達の数が少なくなっていく中で、子ども達が命の大切さを地域で身をもつて体験する、そのような場の一つがこのふれあい体験になります。このふれあい体験は、地域の方々のご理解がなければなりません。また、ふれあいは限られた場所だけではなく、そこから「ひろがり」をもち、町で見かけたときにお互いに声をかけられるような「つながり」への願いも込められています。
 これからの世代を担っていく子ども達にとって大切なことは何か？そのために何が出来るのか、一緒に考えてみませんか？